

## 地域再生計画（案）

### 1 地域再生計画の名称

ワーク・ライフ・バランスとキャリアデザインの推進による雇用創出事業

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

砂川市

### 3 地域再生計画の区域

砂川市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

砂川市では、平成27年度の求人者数4,718名に対して、求職者数4,711名、就職者数409名と少なく、人口も毎年200名以上が減少し、企業における人材不足や人材の定着といった課題は深刻な状況にある。また、経済センサスによると、砂川市の従業員数は、医療・福祉1,752名、卸売・小売業1,714名、建設業1,109名と続き、巧みな技術を持つ職人や道内外で活躍する企業も多いが、技術の伝承や人材育成に課題を抱えており、人材育成の必要性を認識しながらも、取り組むことができずにいることから、その原因を企業訪問により個別に聞き取り、企業に応じた支援をすることが求められている。

従業員の年齢や性別、雇用形態などに関係なく誰もが安心して働き続けることができる職場環境を作るため、学習機会の提供や仲間作りを推進し、人材育成を継続的に実施、検証する。また、企業間の連携を深め、人材育成ネットワークを構築し問題解決を図るとともに、若手従業員から企業の魅力発信を行い、高校生や保護者における地元企業の知名度を高め、地元企業を知らずに市外へ流出してしまうなどのミスマッチや早期退職の解決を図る。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

砂川市には、すでに人づくりに取組み成果をあげている企業がある。また、中小企業大学校の受講料を市が全額補助する制度があり、平成28年度は7社25名が受講するなど、市が企業の人づくりを支援する体制が整備されている。その他、商工会議所など企業の経営者が集まる組織の横の連携や青年会議所など若者が集まる組織との縦の連携が深く、官民協働のまちづくりへの意識も高いことから、後継者や若者の意見を聞き入れ、応援する体制が整備されている。

このような背景から、人づくりに関心の高い企業を対象にモデル企業を選定し、企業の人づくりを通じて働き方改革や地域貢献に取組み、実践、検証を行いながら人材育成のネットワークを構築し、成果を共有しながら、優秀な人材の確保や定着を図り、その結果として企業の業績を伸ばし雇用創出を推進する。また、若手従業員から地元高校生や札幌圏の大学生などへの発信で、地元企業を知る機会や働くことを考える機会の提供を行い、高校生の地元定着の促進や大学生、UIJターンなど市外からの労働者の確保を促進し、求職者と企業のマッチングを目指す。

#### 【数値目標】

|                              | 事業開始前<br>(現時点) | 平成29年度<br>増加分<br>(1年目) | 平成30年度<br>増加分<br>(2年目) | 平成31年度<br>増加分<br>(3年目) |
|------------------------------|----------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 市内の就職人数<br>(人)               | 409            | 6                      | 10                     | 25                     |
| 地元高校から市内<br>企業に就職した割合<br>(人) | 20.4           | 10.0                   | 15.0                   | 20.0                   |

|                              | 平成32年度<br>増加分<br>(4年目) | 平成33年度<br>増加分<br>(5年目) | KPI増加分の累<br>計 |
|------------------------------|------------------------|------------------------|---------------|
| 市内の就職人数<br>(人)               | —                      | —                      | 41            |
| 地元高校から市内<br>企業に就職した割合<br>(人) | —                      | —                      | 45.0          |

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

若者の人材育成などに積極的な企業の登録制度の新設や人づくりゼミナールの開催、企業の問題に応じた専門員の派遣などを行い、企業のワーク・ライフ・バランスの推進を図るとともに、地元高校生、札幌圏の大学生、若手従業員が企画・運営するジョブスタート事業の開催や企業の魅力を発信する冊子と動画を作成し活用することで若者のキャリアデザインを推進し雇用創出を図る。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

#### ① 事業主体

砂川市

#### ② 事業の名称：ワーク・ライフ・バランスとキャリアデザインの推進による雇用創出事業

#### ③ 事業の内容

若者の採用や人材育成、定着に向けて積極的な企業を対象に、砂川市が認定基準を設け「ジョブスタ応援企業」に認定する。企業の雇用状況や職場管理の状況などを市のホームページで公表することで、若者の採用・育成に積極的であることを広くアピールし、若者と企業のマッチングの促進や企業間の人材育成ネットワークの構築を図る。また、企業訪問や商工会議所などと連携した事業周知を行い、認定した企業のインセンティブとして、認定マークの使用許可、市のホームページや広報紙などを活用した企業の魅力発信、市からダイレクトに各種助成金や研修会等の情報メールの発信の他、企業の現状や課題に応じて、ほっかいどう働き方改革支援センターや北海道よろず支援拠点などから専門員の派遣を行い、就業規則の見直しや現場環境の改善の支援を行い、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。

中小企業診断士を講師に、いい会社づくりのための人づくりゼミナールを、ジョブスタ応援企業を対象に3年間継続して行う。各回の合間に企業内でOJTの実践やPDCAサイクルによる事業の検証を行い、最後の回は、公開学習として、講話やゼミナール企業の事例発表などを実施し、ジョブスタ応援企業の活動周知や認定企業の増加を図る。

ジョブスタ応援企業や若手従業員などが制作にかかわり、企業の仕事

内容やそこで働く従業員の魅力などを紹介する冊子と従業員のインタビューや仕事をしている様子を紹介する動画を作成し、中学生や高校生、大学生などへ配布やSNSを使った配信を行う。

地元高校生や札幌圏の大学生、若手従業員がワークショップを行い、高校1年生から3年生まで継続したジョブスタート事業を企画し運営する。高校1年生には、若手従業員から仕事の厳しさややりがい、職場の仕事内容を聞くことで、就職への意識付けや市内企業を知る機会を提供するジョブスタートIN砂川高校を実施する。高校2年生には、1週間程度インターンシップの要素を取り入れながら実際に若手従業員から仕事を教わるジョブスタートアルバイト体験事業を実施する。アルバイト体験は、受入基準を設定し、事前研修や報告会を実施し成果を検証する。高校3年生には、若手従業員による企業紹介や交流事業を通じて地元企業の魅力発信を行うとともに、企業の人事担当者による相談窓口を設置するジョブスタートマッチング事業（合同企業説明会）を行う。いずれの事業も、札幌圏からの大学生の参加と、若手従業員の異業種交流や自らの仕事や働くことを見直す機会とする。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

ジョブスタ応援企業、人づくりゼミナール参加企業、商工会議所、青年会議所、建設協会、金融機関、ハローワーク、砂川高校校長、PTA連合会会長などで組織する「雇用創出協議会」が主催者となり、地元高校生、札幌圏の大学生、地元企業の若手従業員で組織する「若者部会」が企画、運営を行い実施するジョブスタート事業やアルバイト体験事業、マッチング事業のノウハウを3年間で構築させる。また、ジョブスタ応援企業を中心とした人材育成ネットワークを構築させることで、企業の業績を高め、雇用創出が図られることを検証し、雇用創出協議会の実績や信頼を得ることで、企業の協賛金を集め事業を実施できる体制の整備を図り、市は講師に係る経費の一部を負担し事業を支援する。

##### 【官民協働】

若者部会がワークショップで意見交流をしながら、事業を企画、運営し、雇用創出協議会が主催する体制整備や企業間の人材育成ネットワークの構築に向けて、市はジョブスタ応援企業の推進や各種事業の講師の紹介、学習機会の提供、調査、分析など基盤づくりの支援を行

い、企業が実践し成果が出せる仕組みづくりを官民協働で取り組む。

#### 【政策間連携】

若者部会が事業を企画、運営することやジョブスタ応援企業による人づくりを通じて、若者が元気になり、企業が元気になるしくみづくりを行い、魅力的な企業に優秀な人材が集まり、定着することで企業の業績を伸ばし、雇用創出に繋がる。

#### 【地域間連携】

雇用にかかる広域組織は多様にあり、情報交換や意見交換、合同企業説明会などが実施されている。雇用創出における広域連携は重要であり、特に各市町の地域性に応じた特色ある企業の取組や企業の魅力紹介を行うことで広域事業の成果を高めることから、本市の取組みを提言し、今後の広域連携を推進させる。

#### 【その他の先導性】

高校生や大学生、若者を雇用創出のターゲットとして位置づけた事業ではあるが、企業内の人づくりが進み、誰もが安心して働き続けることができるワーク・ライフ・バランスを推進させることで、女性や高齢者の就労問題の解決や移住定住対策にも効果が広がる。ジョブスタ応援企業を中心に企業間の人材育成ネットワークを構築させ、継続的な学習の機会と実践を交流することで、砂川市全体の人づくりや協働のまちづくりを推進する。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

|                              | 事業開始前<br>(現時点) | 平成29年度<br>増加分<br>(1年目) | 平成30年度<br>増加分<br>(2年目) | 平成31年度<br>増加分<br>(3年目) |
|------------------------------|----------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 市内の就職人数<br>(人)               | 409            | 6                      | 10                     | 25                     |
| 地元高校から市内<br>企業に就職した割<br>合(%) | 20.4           | 10.0                   | 15.0                   | 20.0                   |

|                              | 平成32年度<br>増加分<br>(4年目) | 平成33年度<br>増加分<br>(5年目) | KPI増加分の累<br>計 |
|------------------------------|------------------------|------------------------|---------------|
| 市内の就職人数<br>(人)               | —                      | —                      | 41            |
| 地元高校から市内<br>企業に就職した割<br>合(%) | —                      | —                      | 45.0          |

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

総合戦略の効果検証に際して、その妥当性・客観性を担保するため、外部有識者等の参画を得て実施する。

外部組織は、砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定した目標数値の検証・評価及び必要に応じて施策の見直しについて提言を行う。

【外部組織の参画者】

新砂川農業協同組合、砂川観光協会、砂川商工会議所、砂川建設協会、砂川市校長会、砂川金融協会、砂川市町内会連合会、砂川地区連合会、砂川青年会議所

【検証結果の公表の方法】

砂川市ホームページ

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 10,072千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日（3ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) ジョブスタート事業

事業概要：平成28年8月に地元企業41社を訪問し、企業の現状や従業員の状況などの聞き取り調査を行うとともに、ジョブスタート事業の周知・参加依頼を行った。地元高校の生徒会18名と地元企業の若手従業員30名が9月～11月にかけて4回のワークショップを行いながら、ジョブスタIN砂川高校の企画運営を協議・実施した。アイスブレイクを中心にした話し合いができる環境づくりを丁寧に行い、ワークショップを通じて、高校生は地元企業を知り、魅力に気づき、働くことを具体的にイメージした。若手従業員は、高校生に自分の仕事を話すことで自らの仕事への姿勢や企業の方針を考える機会となり、異業種交流にも繋がった。2月に行ったジョブスタIN砂川高校では、高校1年生の授業時間を使い、1年生82名と企業の若手従業員20名が参加し、企業の紹介やグループトークで交流を図った。事業終了後に、参加した従業員とともに反省評価を行い、次年度事業にむけての改善を図った。

実施主体：北海道砂川市

事業期間：平成28年度～

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

#### 【検証方法】

総合戦略の効果検証に際して、その妥当性・客観性を担保するため、外部有識者等の参画を得て実施する。

外部組織は、砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定した目標数値の検証・評価及び必要に応じて施策の見直しについて提言を行う。

#### 【外部組織の参画者】

新砂川農業協同組合、砂川観光協会、砂川商工会議所、砂川建設協会、砂川市校長会、砂川金融協会、砂川市町内会連合会、砂川地区連合会、砂川青年会議所



## 7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

### 【数値目標】

|                              | 事業開始前<br>(現時点) | 平成29年度<br>増加分<br>(1年目) | 平成30年度<br>増加分<br>(2年目) | 平成31年度<br>増加分<br>(3年目) |
|------------------------------|----------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 市内の就職人数<br>(人)               | 409            | 6                      | 10                     | 25                     |
| 地元高校から市内<br>企業に就職した割<br>合(%) | 20.4           | 10.0                   | 15.0                   | 20.0                   |

|                              | 平成32年度<br>増加分<br>(4年目) | 平成33年度<br>増加分<br>(5年目) | KPI増加分の累<br>計 |
|------------------------------|------------------------|------------------------|---------------|
| 市内の就職人数<br>(人)               | —                      | —                      | 41            |
| 地元高校から市内<br>企業に就職した割<br>合(%) | —                      | —                      | 45.0          |

## 7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

砂川市ホームページ

## 地域再生計画（案）

### 1 地域再生計画の名称

ふるさと名物「砂川スイーツ」を活用した観光振興

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

砂川市

### 3 地域再生計画の区域

砂川市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

砂川市は毎年200名以上の人口減少が進んでおり、商店等の閉店も顕著であり、市内経済、特に中心市街地の活性化が求められている。また、砂川市の平成27年度観光入込客数は、前年度比6.9%減の126.7万人となったことから、砂川市の魅力を十分に紹介し、ここでしか体験できないプレミアムな女子旅を提案する観光コンテンツの開発が急務である。

砂川市を横断する国道12号は、札幌と旭川を結ぶ基幹道路であることから交通量は多く、平成27年度には砂川SAスマートインターチェンジが開通し、さらに交通の便が良くなったが、砂川市を訪れる観光客の多くは、高速道路と連動した砂川ハイウェイオアシス館に立ち寄り休憩やお土産を購入するが、高速道路を下りてまちなかを回遊する観光客の数は非常に少なく、いかにしてまちなか回遊に繋げるかが課題である。また、JR北海道の特急が30分に1回止まり、札幌まで50分で行ける立地条件を活かし、札幌圏の若い女性をターゲットにJRとタクシーを使った少人数の女子旅の提案を若い女性目線で策定するため、市内や近隣市町からスイート応援団になる若い女性の人材発掘や組織作りが求められている。

これらの問題解決と並行して、現在の通過型観光から滞在型観光を目指

すため、宿泊施設が少ない砂川市は近隣市町と連携し各市町の観光コンセプトやブランド力を融合させた魅力的な広域観光の取組の検討が課題である。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

砂川市は、国道12号沿いに和洋の味わいもバラエティに富んだ美味しいスイーツが揃う菓子店が点在するスイートロードとしてまちのブランディングを進め、平成14年5月にお菓子でまちを元気にしようと官民協働で「すながわスイートロード協議会」を設立、平成27年12月に「すながわスイーツ」で道内第1号のふるさと名物応援宣言を行った背景から、「スイート」の意味である心地よい、うれしい、美しいなどに関連した美と健康をテーマに、札幌圏からの若い女性をターゲットにした少人数の「女子旅」の旅行商品やスイーツの開発などを行い、地域住民にとっても観光客にとっても心地よいスイートなまちづくりを目指すものである。

砂川市には、菓子店やカフェが19店舗、パークチャップを提供する飲食店が21店舗ある他、地域の中核病院である砂川市立病院、人口一人当たりの都市公園面積日本一と言われる多数の公園、こだわりの物づくり企業など、観光コンテンツとなる地域資源が多数あることから、官民協働で砂川の魅力を発信する旅行商品や農工商連携による美と健康を考えたスイーツの開発、販売などを推進し、すながわスイーツのブランド力向上を図り、砂川市に観光客を呼び込み観光振興を図る。また、若い女性を対象とした女子旅の提案は、札幌圏に限らず、道外やインバウンドのニーズにも合致するものであり、地域住民や観光客がSNSを使った発信をしたくなるような「かわいい」「すてき」をコンセプトにすることで、地域住民や観光客自らが情報を拡散する仕組みを作り、友人や家族などへのお土産消費にも繋げる。

スイートロード協議会が事業の実施主体となり、美と健康を考える女性団体やクリエイター、インバウンド受入協議会、市民ボランティアなどの観光事業を自ら推進する民間団体や個人をスイート応援団として位置づけ、官民協働で地域と一体となった砂川市の観光コンセプトを確立させるとともに、中空知における広域観光DMOの設立を目指す。

## 【数値目標】

|                              | 事業開始前<br>(現時点) | 平成29年度<br>増加分<br>(1年目) | 平成30年度<br>増加分<br>(2年目) | 平成31年度<br>増加分<br>(3年目) |
|------------------------------|----------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 観光入込客数<br>(人)                | 1,234,000      | 10,000                 | 20,000                 | 78,000                 |
| 砂川スイートロード協議会主催事業<br>参加人数 (人) | 1,335          | 100                    | 150                    | 215                    |

|                              | 平成32年度<br>増加分<br>(4年目) | 平成33年度<br>増加分<br>(5年目) | KPI増加分の累<br>計 |
|------------------------------|------------------------|------------------------|---------------|
| 観光入込客数<br>(人)                | —                      | —                      | 108,000       |
| 砂川スイートロード協議会主催事業<br>参加人数 (人) | —                      | —                      | 465           |

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

観光コンセプト策定のための勉強会やおもてなし観光を考えるワークショップを通じて、ふるさと名物「すながわスイーツ」を活用した観光コンテンツの発掘やスイーツの新商品開発などを実施することで、すながわスイーツのブランド力向上を図り、観光客を呼び込む体制を整備し観光振興を図る。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

砂川市

② 事業の名称：ふるさと名物「すながわスイーツ」を活用した観光振興

③ 事業の内容

平成28年度に、中小企業基盤整備機構から講師を招き砂川市の観光を考える勉強会を開催し、地域資源の掘り起こしを行い砂川市の観光コン

セプトを作成した。その結果を受けて作成した事業計画の検証と実施主体となるスイートロード協議会の自走に向けた取組支援などのワークショップをスイートロード協議会やスイート応援団、行政職員などを対象に官民連携で開催する。また、広域観光DMOの設立に向けて会員として加入し、近隣市町と連携し各市町の観光コンセプトやブランド力を融合させた魅力的な広域観光の取組の検討により、広域観光DMOの設立を目指し、通過型観光から滞在型観光への移行を図る。

スイートなまちづくりに向けたボランティア登録制度として、スイートロード協議会が認定基準を設け「スイート応援団」を認定し、各種事業への参加協力などを依頼する。スイート応援団は、団体や個人を対象とし、スイートロードマークのついたトートバックを配布し、そのバックを持って活動することでスイート応援団の存在の周知やPRを行いながら、スイートなまちづくりのコンセプトにあった事業を自主開催する。その際、スイートロード協議会会員の協力や広報活動などの支援を受けることができる。

まちづくりの専門家を講師に招き、砂川のおもてなし観光を考えるワークショップを継続的に開催する。対象は、スイートロード協議会会員、スイート応援団、サービス業などの事業者、一般市民として、観光資源の掘り起こしからはじめ、魅力的な観光マップの在り方や若い女性をターゲットとした旅行商品の開発、自転車レンタルの仕組みづくりや自転車観光ルートの検討などを行い、砂川市の観光の広報宣伝活動の基礎づくりを行う。ここで出された意見をまとめ、観光マップやポスターの作成、旅行雑誌の掲載、ドローンを使った映像の活用を図る。

札幌圏からの若い女性をターゲットとした「1万円女子旅」を旅行会社と連携し旅行商品として売り出す。砂川には、1万円選書で有名ないわた書店があることから、その事業と融合し、観光客に「旅カルテ」の記入をお願いし、個人のニーズにあったあなただけのプレミアムな1万円女子旅を提案する。そのために、若い女性目線で多様なニーズに対応可能な魅力的なコンテンツの開発を検討するおもてなし観光ワークショップを開催し、スイート応援団となり活動する人材の発掘や組織づくりを進める。

砂川の農産物等を使用し、フードコーディネーターや高校生、農業者、スイート応援団、カフェ経営者などと連携し、若い女性をターゲットに美と健康や見た目の「かわいい」をテーマとしたスイーツの新商品を開発する。開発したレシピはカフェや飲食店、菓子店等に公開し、各店舗において個性ある商品化、販売を推進するとともに、スイートロード協

議会が運営するホームページのネットショップでの販売を行う。また、スイートロード協議会が主催する菓子店やカフェのスイーツが一堂に集まるお菓子のお祭り「スイーツフェスタ」やお菓子づくり教室などを通じて、新商品の紹介、販売、レシピ公開を行い、家庭や地域にも普及させることで、子どもの頃から親しみのあるすながわスイーツとして定着させる。

インバウンド受入協議会が台湾の人気ブロガーを招き、台湾の観光客をターゲットとした魅力ある旅行商品の開発など、インバウンド事業の実施を行うため、市は補助金を支出し支援する。また、砂川市には、北海道唯一の義士会があり、北泉岳寺に義士墓があることから、毎年市民が義士パレード等を行う義士祭を開催し、61年続く砂川の冬の風物詩となっている。その背景から、昨年実施したインバウンドモニターツアーのメニューに義士体験を取り入れ好評であったことから、市が義士(侍)の衣装の整備を図り無償で貸し出すことで、インバウンド事業推進の支援を行う。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

現在のスイートロード協議会の機能をさらに強化し、スイート応援団とともにスイートなまちづくりを進める総括的組織として官民連携で事業を行い、観光客を砂川市に呼び込み、菓子店やカフェ、商店街などが稼ぐ仕組みを作る支援を行うことから、主催事業にかかる経費の一部は市が補助金で支出し、観光全般にわたる広告宣伝費や講師謝礼は市の一般財源で担う。

スイートロード協議会の自主財源としては、スイートロード協議会が主催する1万円女子旅やスイーツフェスタ、新商品のPRなどを行う広報紙やSNSの発信にかかる経費を掲載企業から協賛金を募り財源とする。また、自転車のレンタル収入やふるさと納税返礼品業務の一部請負、ネットショップの掲載事業者より手数料を徴収し運営費の財源とする。

##### 【官民協働】

砂川商工会議所、砂川観光協会、砂川商店街連合会、砂川青年会議所、消費者協会、北海道立青少年体験活動支援施設ネパール砂川、砂川菓子組合、市内のカフェなどで構成する「スイートロード協議会」や女性団体、クリエイター、インバウンド受入協議

会、農業団体、市民ボランティアなどで構成する「スイーツ応援団」などと行政が一体となって、砂川市の魅力再発見や地域の課題の分析調査を行い、砂川市の観光コンセプトを検証し、観光客を呼び込むための効果的なプロモーションを官民協働で実施する。

#### 【政策間連携】

砂川スイーツのブランド力向上を図ることで、観光客の受け入れ体制の整備や農商工連携による新商品の開発などを総合的に推進する。また、スイーツ（心地よい等）なまちづくりには、移住定住や子育て等も関係することから、政策間の連携も深めていく。

#### 【地域間連携】

中空知地域における広域観光DMO設立を目指し、平成29年度から「滝川砂川着地型観光推進協議会（仮称）」を設立し、その会員として「スイーツロード協議会」が加入予定である。また、近隣市町と連携し各市町の観光コンセプトやブランド力を融合させた魅力的な広域観光の取組を推進し砂川市や観光協会、他の民間企業等も加入することで、地域間連携を深めていく。

#### 【その他の先導性】

スイーツロード協議会をはじめとする、地域住民で組織する任意団体が様々な取組みを活発に行っており、コンパクトなまちであることを活用し、観光コンセプトを見定めることで、地域と一体となって同じ意識のもと観光事業を進める体制の整備を図ることができる。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

|                             | 事業開始前<br>(現時点) | 平成29年度<br>増加分<br>(1年目) | 平成30年度<br>増加分<br>(2年目) | 平成31年度<br>増加分<br>(3年目) |
|-----------------------------|----------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 観光入込客数<br>(人)               | 1,234,000      | 10,000                 | 20,000                 | 78,000                 |
| 砂川スイートロード協議会主催事業<br>参加人数(人) | 1,335          | 100                    | 150                    | 215                    |

|                             | 平成32年度<br>増加分<br>(4年目) | 平成33年度<br>増加分<br>(5年目) | KPI増加分の累<br>計 |
|-----------------------------|------------------------|------------------------|---------------|
| 観光入込客数<br>(人)               | —                      | —                      | 108,000       |
| 砂川スイートロード協議会主催事業<br>参加人数(人) | —                      | —                      | 465           |

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

総合戦略の効果検証に際して、その妥当性・客観性を担保するため、外部有識者等の参画を得て実施する。

外部組織は、砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定した目標数値の検証・評価及び必要に応じて施策の見直しについて提言を行う。

【外部組織の参画者】

新砂川農業協同組合、砂川観光協会、砂川商工会議所、砂川建設協会、砂川市校長会、砂川金融協会、砂川市町内会連合会、砂川地区連合会、砂川青年会議所

【検証結果の公表の方法】

砂川市ホームページ

⑦ 交付対象事業に要する経費



- ・第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 30,617千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日（3ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

- (1) スイートロード協議会主催事業及びふるさと名物等を活用した観光振興勉強会

事業概要：スイートロード協議会が主催するメイン事業として9年前から市内の菓子店やカフェのスイーツが一堂に集まるお菓子のお祭り「スイーツフェスタ」を開催しており、その他菓子店を講師にしたお菓子づくり教室やパンフレットやのぼりを作成しPR事業を実施している。また、本年1月に中小企業基盤整備機構から講師を招き、砂川スイートロード協議会、青年会議所、クリエイター、女性グループ、地域おこし協力隊、観光協会、行政職員等33名が集まり、勉強会を開催した。地域資源を活用したまちづくりについて、講演やグループワークを通じて理解を深めるとともに、協力して実施していくための意思疎通を図り、観光コンセプトを策定した。

実施主体：北海道砂川市

事業期間：平成28年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

#### 【検証方法】

総合戦略の効果検証に際して、その妥当性・客観性を担保するため、外部有識者等の参画を得て実施する。

外部組織は、砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定した目標数値の検証・評価及び必要に応じて施策の見直しについて提言を行う。

#### 【外部組織の参画者】

砂川市ホームページ

### 7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

#### 【数値目標】

|                             | 事業開始前<br>(現時点) | 平成29年度<br>増加分<br>(1年目) | 平成30年度<br>増加分<br>(2年目) | 平成31年度<br>増加分<br>(3年目) |
|-----------------------------|----------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 観光入込客数<br>(人)               | 1,234,000      | 10,000                 | 20,000                 | 78,000                 |
| 砂川スイートロード協議会主催事業<br>参加人数(人) | 1,335          | 100                    | 150                    | 215                    |

|                             | 平成32年度<br>増加分<br>(4年目) | 平成33年度<br>増加分<br>(5年目) | KPI増加分の累<br>計 |
|-----------------------------|------------------------|------------------------|---------------|
| 観光入込客数<br>(人)               | —                      | —                      | 108,000       |
| 砂川スイートロード協議会主催事業<br>参加人数(人) | —                      | —                      | 465           |

### 7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

砂川市ホームページ